

# 川越市観光アンケート調査

## 報告書

平成29年

【平成29年1月～平成29年12月】

川越市マスコットキャラクター

ときも

平成30年4月

川越市

## 目 次

1. 平成29年川越市入込観光客数の概要	2
2. 観光アンケート調査の統計・分析	3
2-1. 観光アンケート調査の趣旨	3
2-2. 観光アンケート調査の方法	4
2-3. 観光アンケート調査の結果	6
2-3-1. 出発地	6
2-3-2. 性別	12
2-3-3. 年齢	12
2-3-4. 同行者	13
2-3-5. 交通手段	14
2-3-6. 滞在期間	15
2-3-7. 宿泊観光客	15
2-3-8. 観光時間	16
2-3-9. 訪れた時刻、帰る時刻	17
2-3-10. 来訪回数	19
2-3-11. 認知方法	19
2-3-12. 立ち寄り観光地	21
2-3-13. 交通費	23
2-3-14. 宿泊費	23
2-3-15. 飲食費	24
2-3-16. 入館料・入場料	25
2-3-17. お土産購入費	25
2-3-18. 要望	26
2-3-19. 意見・感想	27
3. 観光消費額	28

## 1. 平成29年川越市入込観光客数の概要

平成29年に川越を訪れた観光客数は6,628,000人だった（外国人観光客含む）。前年に比べ412,000人の減少（5.9%減）となった。

要因としては、「川越百万灯夏まつり」や「川越まつり」などの大型イベントにおける雨や、秋の観光シーズンの度重なる台風の上陸や長雨など天候の影響によるものと考えられる。一方で、訪日外国人観光客数は197,000人と、平成28年の171,000人に比べ、26,000人の増加となった（前年比15.2%増）。また、「川越氷川神社縁むすび風鈴」（7/1～9/10）が350,000人を集客しており、昨年よりも150,000人増加（前年比で75%増）し、この時期は浴衣姿で散策する若者が多く見受けられた。

公設公営の施設（市の施設）の入館者数については、蔵造り資料館を除く5施設（川越まつり会館、川越城本丸御殿、市立博物館、市立美術館、旧山崎家別邸）で減少する結果となった。

（表1）市の施設の入館者数

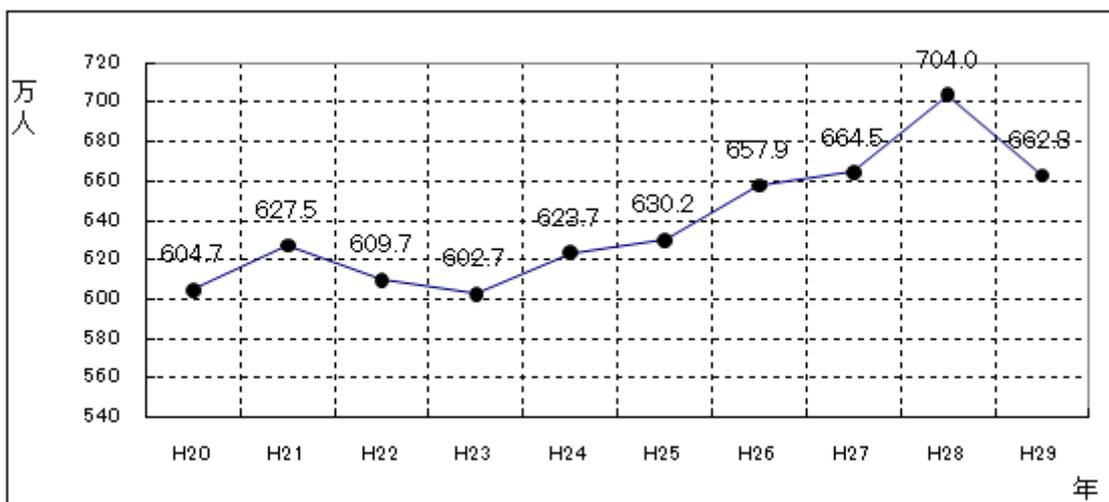
	平成28年	平成29年	前年比
蔵造り資料館	68,566人	137,604人	100.7%増
川越まつり会館	115,373人	101,037人	12.4%減
川越城本丸御殿	173,873人	159,380人	8.3%減
市立博物館	96,799人	91,977人	5.0%減
市立美術館	95,749人	75,334人	21.3%減
旧山崎家別邸	13,813人	11,206人	18.9%減

（表2）各種行事の入込観光客数

	平成28年	平成29年	前年比
小江戸川越春まつりオープニング	30,000人	30,500人	1.7%増
小江戸川越春まつりフィナーレ	170,000人	185,000人	8.8%増
川越百万灯夏まつり	165,000人	120,000人	27.3%減
小江戸川越花火大会（伊佐沼公園）	80,000人	95,000人	18.8%増
川越まつり	985,000人	730,000人	25.9%減
かわごえ産業フェスタ	24,700人	20,900人	15.3%減

※川越市入込観光客数は暦年で調査を実施。

(表3) 過去10年間の川越市入込観光客数



前述のとおり、平成29年の外国人入込観光客数は、197,000人と、平成28年に比べ26,000人増加し、15.2%の増加となった。

JNTOによると、平成29年の訪日外客数は前年比19.3%増の28,691,000人でJNTOが統計を取り始めた1964年以降、最多となった。航空路線の拡充やクルーズ船寄港数の増加、ビザ要件の緩和に加え、これまでの継続的な訪日旅行プロモーションなど、様々な要因が訪日外客数の増加を後押ししたと考えられる。このように、日本全体の訪日外客数の増加に伴って、川越市の外国人観光客数も増加したと推測される。

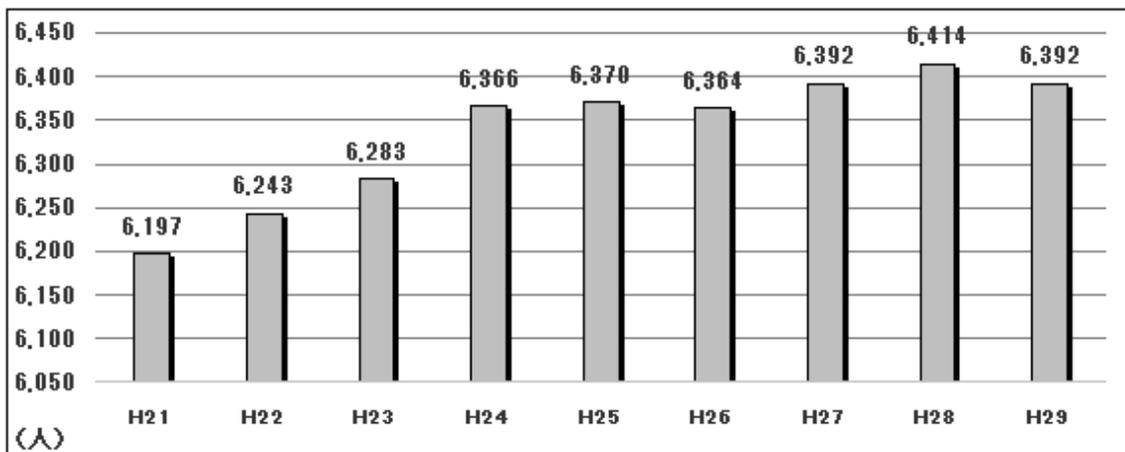
また、観光課で実施した無料Wi-Fi整備及びツーリズムEXPOジャパンやビジットジャパントラベルマートへの出展参加などの他、鉄道事業者や埼玉県とともに取り組んできた数々のインバウンド対策が実を結んできているものと推測される。さらに、川越に来る外国人観光客は訪日のリピーターが多く、日本好きの外国人に人気があるものと思われる。

## 2. 観光アンケート調査の統計・分析

### 2-1 観光アンケート調査の趣旨

観光アンケート調査は、観光客一人一人に対する聞き取りによるもので、その結果を基に、観光客の出発地、交通手段、立ち寄り観光地、観光消費額など、観光客の基本的な動態を把握することを目的としている。

(図1) 年毎のアンケート調査の標本数



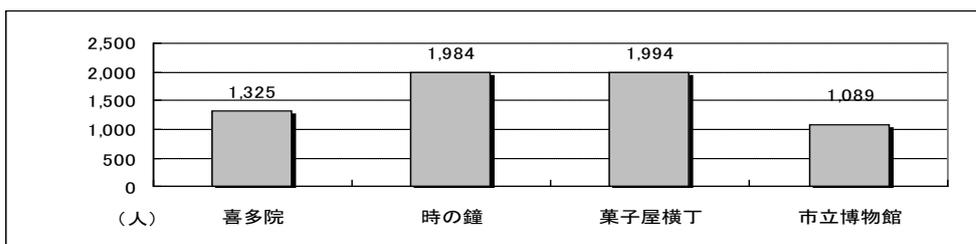
## 2-2 観光アンケート調査の方法

- 期間：平成 29 年 1 月から 12 月までの 1 年間
- 地点：喜多院、時の鐘、菓子屋横丁、市立博物館
- 方法：聞き取りによる
- 時間：午前 11 時から午後 3 時までの 4 時間
- 件数：6,392 件

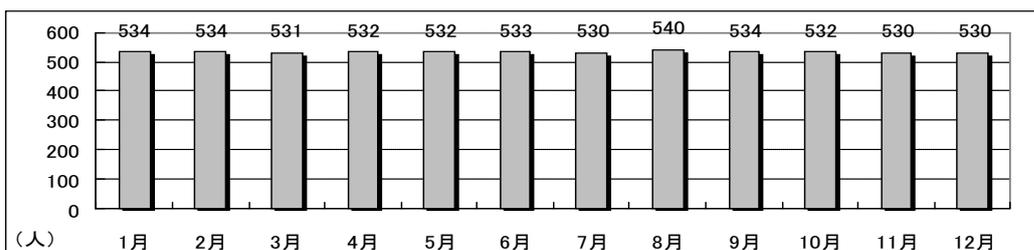
アンケート調査地点の聞き取り件数は (図 2) のとおりである。

また、(図 3) のとおり、アンケート調査に偏りが出ないように、月毎に調査を実施している。

(図 2) 観光アンケート調査地点と聞き取り件数



(図 3) 各月の観光アンケート調査数



※なお、回答結果については、百分率 (%) で表示しているものもあるが、小数点第 2 位で四捨五入しているため、その数値の合計は 100%にならない場合がある。



## 2-3 観光アンケート調査の結果

### 2-3-1 出発地

アンケート回答者総数 6,392 人のうち、国内が出发地の観光客は 6,115 人、国外が出发地の観光客は 274 人だった。（3 人は不明）

以下、出発地の分析を国内と国外とに分けて行う。

#### (1) 国内

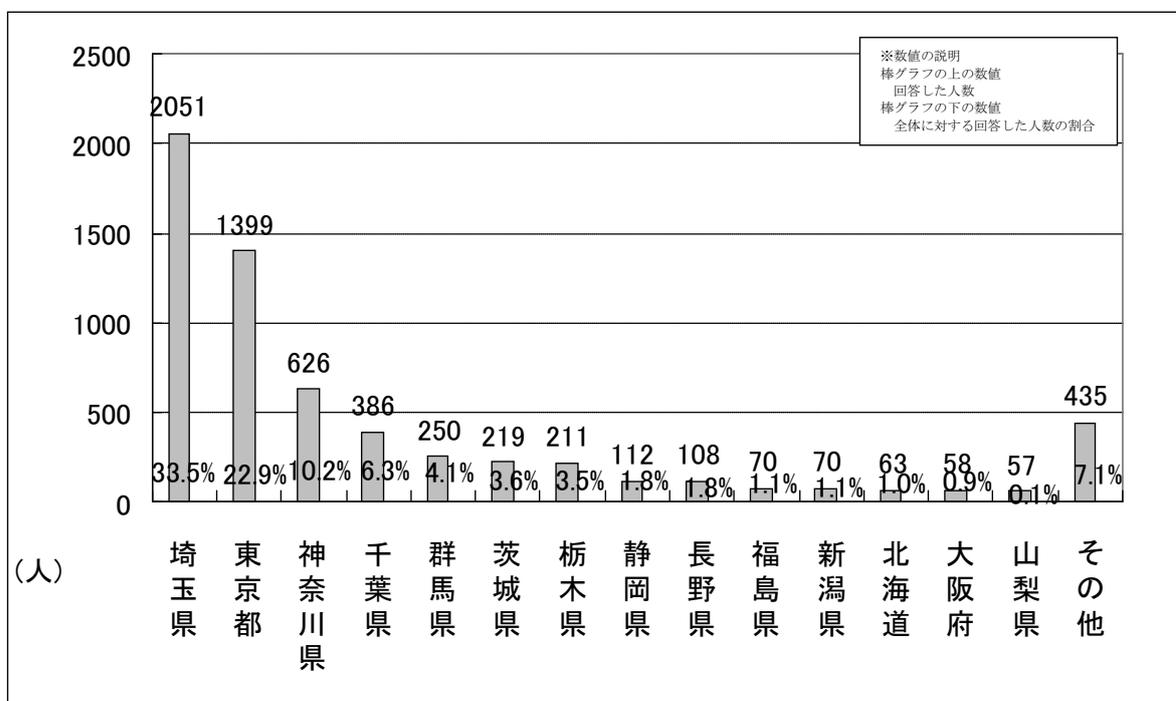
##### ①都道府県別

川越を訪れた観光客の 85.0%が関東地方の各都県から出発していた（図 4）。特に、県内市町村及び東京都を出发地とする観光客の割合が 56.4%（平成 28 年：57.2%）であり、全体の半数以上を占める結果となった。

関東地方の各都県以外では、静岡県（112 人、1.8%）、長野県（108 人、1.8%）から出発した観光客が上位の結果となった。全国の各都道府県別出发地は表 2 のとおりである。

なお、昨年と比較して、北陸・信越方面からの割合が増加する結果となった（平成 28 年 131 人→平成 29 年 219 人）が、これは平成 27 年 3 月に北陸新幹線が東京から金沢まで開通したことが影響していると考えられる。

（図 4） 出発地



(表4) 都道府県別出発地

地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	5, 199人	埼玉県(2,051), 東京都(1,399), 神奈川県(626), 千葉県(386), 群馬県(250), 茨城県(219), 栃木県(211), 山梨県(57)
北陸・信越	219人	長野県(108), 新潟県(70), 石川県(21), 富山県(13), 福井県(7)
東海	191人	静岡県(112), 愛知県(50), 三重県(15), 岐阜県(14)
東北	177人	福島県(70), 宮城県(49), 山形県(18), 岩手県(14), 秋田県(14), 青森県(12)
近畿	123人	大阪府(58), 兵庫県(29), 京都府(14), 奈良県(13), 滋賀県(6), 和歌山県(3)
九州・沖縄	88人	福岡県(38), 鹿児島県(13), 沖縄県(11), 熊本県(9), 宮崎県(6), 長崎県(4), 大分県(4), 佐賀県(3)
北海道	63人	北海道(63)
中国	39人	広島県(22), 岡山県(8), 島根県(6), 山口県(2), 鳥取県(1)
四国	16人	香川県(8), 愛媛県(5), 高知県(2), 徳島県(1)
	6, 115人	

※各都道府県の地方区分は、郵便事業株式会社発行の郵便番号簿の地方区分に従った。

## ②市区町村別（埼玉県、東京都、神奈川県）

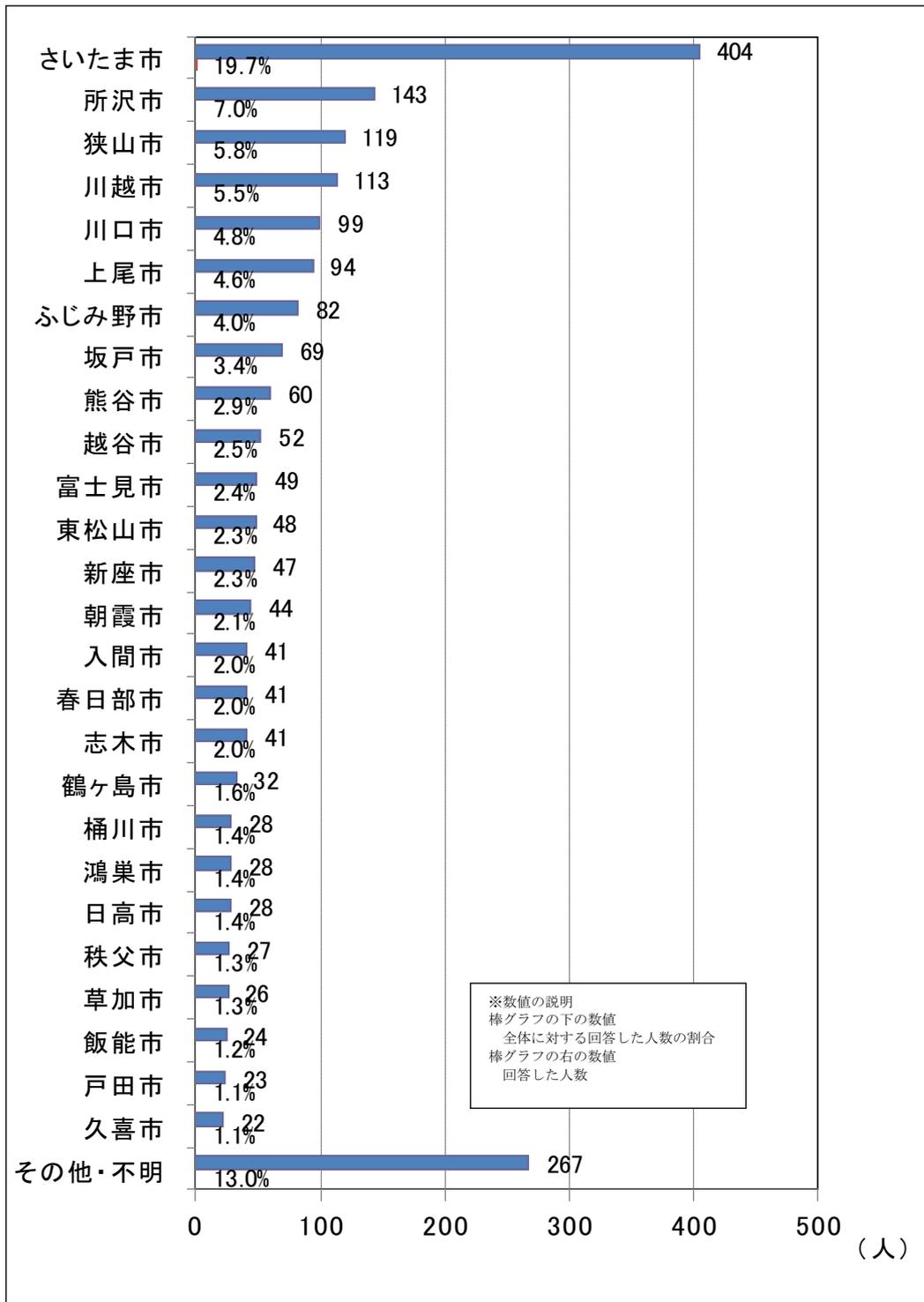
上位3位を占めた埼玉県、東京都、神奈川県の観光客について、市区町村別出発地は、図5（埼玉県）、図6（東京都）、図7（神奈川県）のとおりとなった。

### (ア) 埼玉県

埼玉県内の出発地で最も多かったのはさいたま市であり、全体の19.7%を占め、前年よりも0.9ポイント減少した。(平成28年:20.6%)距離の近さ、人口の多さ(1,291,736人、平成29年12月1日現在)、及び、JR川越線、国道16号などによる交通アクセスの利便性の高さなどが最上位になった要因と考えられる。埼玉県内の出発地データは、平成19年以降(平成20年についてはデータなし)、毎年さいたま市が1位となっており、今年も引き続き2位を大きく上回る結果となった。

次に多かったのは、所沢市の7.0%であった。続いて第3位は狭山市(5.8%)、第4位は川越市(5.5%)、第5位は川口市(4.8%)という結果だった。上位の5市は、昨年と比較して、川越市が5位から4位にランクアップした。また、上尾市が4位から6位に下がり、代わって川口市が7位から5位にランクインした。

(図5) 埼玉県の市町村別出発地

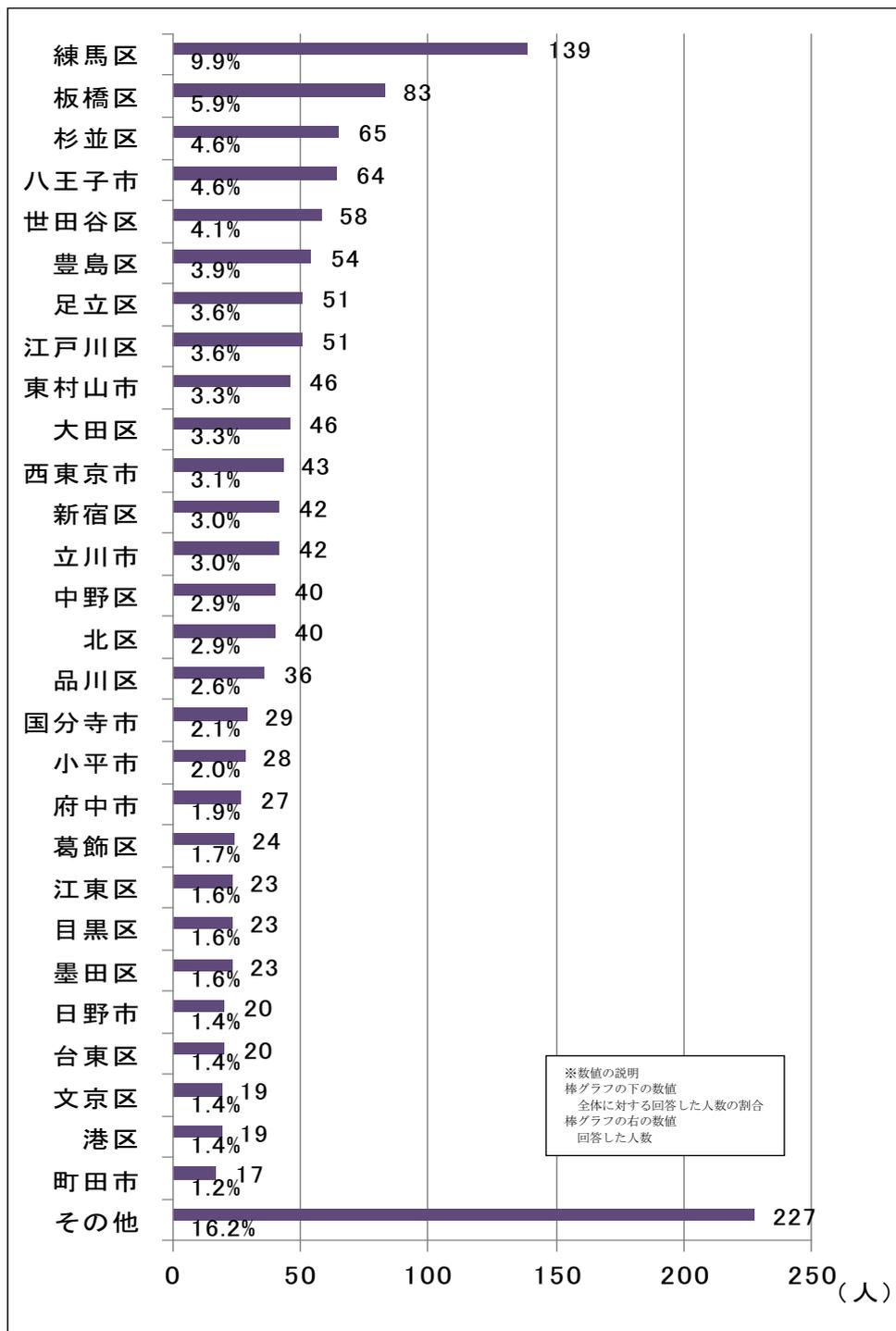


(イ) 東京都

東京都内の出発地で最も多かったのは練馬区であり、全体の 9.9%（平成 28 年：10.3%）を占めた。練馬区が第 1 位となった要因としては、人口の多さ（728,503 人、平成 29 年 12 月 1 日現在）や、西武池袋・新宿線、東武東上線、川越街道（国道 254 号）、関越自動車道（練馬 IC～川越 IC）など交通の利便性が高いことが考えられる。

第 2 位は板橋区の 5.9%で、続いて第 3 位は杉並区(4.6%)、第 4 位は八王子市(4.6%)、第 5 位は世田谷区（4.1%）という結果だった。前年に比べ、杉並区と世田谷区の順位が入れ替わった。

(図 6) 東京都の市区町村別出発地

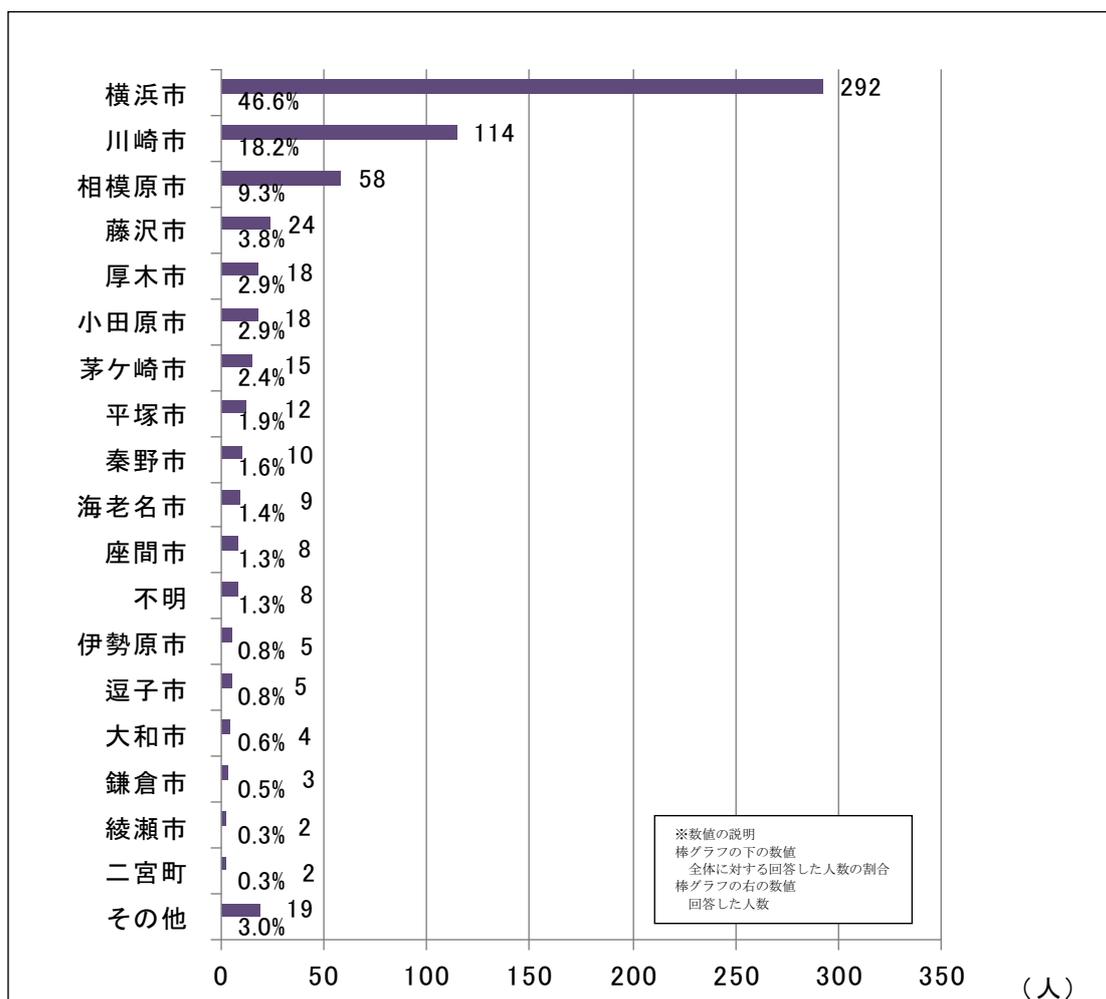


(ウ) 神奈川県

神奈川県内の出発地で最も多かったのは横浜市であり、全体の 46.6%(平成 28 年度：48.9%)を占めた。横浜市が第 1 位となった要因としては、人口の多さ (3,734,012 人、平成 29 年 12 月 1 日現在) や、鉄道 5 社相互直通運転が平成 25 年 3 月 16 日に開始したこと、さらに平成 28 年 3 月 26 日には相互直通運転区間を運転する最速電車「F ライナー」が誕生し、交通の利便性の高さが増したことが要因のひとつと考えられる。

第 2 位は川崎市の 18.2%で、続いて第 3 位は相模原市 (9.3%) という結果であった。神奈川県内の出発地データは、平成 25 年以降集計を開始したが、上位 3 市の順位は 5 年連続同様の結果となった。

(図 7) 神奈川県の市町村別出発地



## (2) 国外

国外から出発した観光客は 274 人、割合としては 4.3%であった。(平成 24 年 1.8%、平成 25 年 3.1%、平成 26 年 3.2%、平成 27 年 3.8%、平成 28 年 5.0%)

国別では台湾 (106 人)、タイ (28 人)、韓国 (24 人)、香港 (23 人)、中国 (20 人)、アメリカ合衆国 (17 人)、オーストラリア (9 人) が上位となった。上位 5 か国全てがアジアの出発地という結果となった。(表 5)

(表 5) 国別出発地

国 名	回答者数
台湾	106 人
タイ	28 人
韓国	24 人
香港	23 人
中国	20 人
アメリカ合衆国	17 人
オーストラリア	9 人
マレーシア、フランス	各 5 人
シンガポール	4 人
カナダ、インドネシア、ロシア	各 3 人
ドイツ、ベトナム、スウェーデン、フィリピン、フィンランド、チェコ	各 2 人
スペイン、イギリス、ブラジル、ニュージーランド、ハンガリー、 インド、オーストリア、アラブ首長国連邦、セルビア、シリア アルゼンチン、メキシコ	各 1 人
計	274 人

なお、川越市内の各観光案内所（川越駅観光案内所、本川越駅観光案内所、仲町観光案内所）の統計による、平成 29 年の外国人観光客利用者数は以下の通りである。上位 7 か国は平成 28 年と同様の結果となったが、8 位にインドネシアが新たにランクインしてきている。

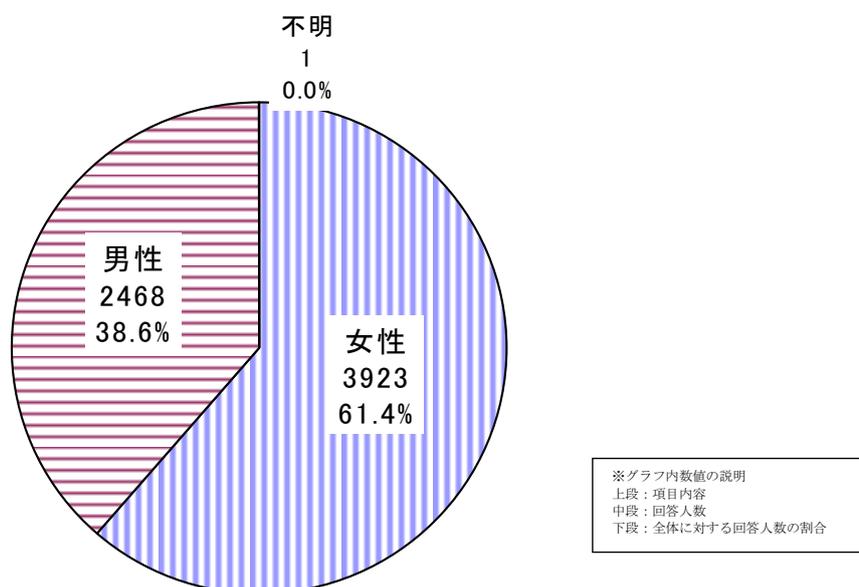
（表 6）観光案内所外国人観光客利用者数

1 位	台湾	19,366 人	6 位	シンガポール	1,373 人
2 位	中国（香港含む）	8,226 人	7 位	マレーシア	920 人
3 位	タイ	5,503 人	8 位	インドネシア	535 人
4 位	韓国	2,664 人	9 位	フランス	523 人
5 位	米国	2,368 人	10 位	スペイン	501 人

### 2-3-2 性別

性別は、平成 28 年の調査同様、女性が男性を上回っており、女性が 61.4%、男性が 38.6%という結果となった。（図 8）

（図 8） 性別



### 2-3-3 年齢

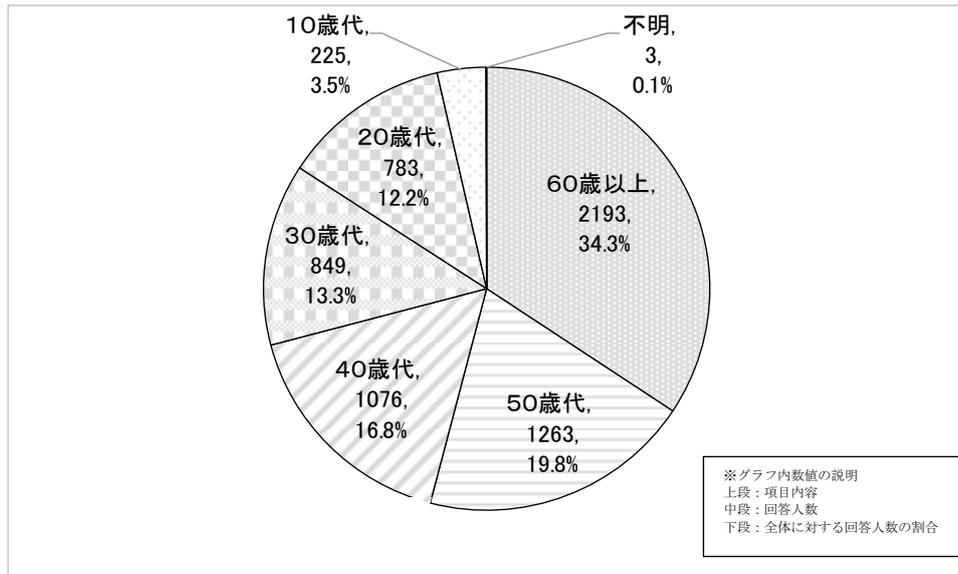
50 歳代以上の中老年層が 54.1%という結果となり、半数以上を占めた。（図 9）

（50 歳以上の割合：平成 27 年 56.0%、平成 28 年 53.6%、平成 29 年 54.1%）

（10～20 歳代の割合：平成 27 年 15.0%、平成 28 年 15.7% 平成 29 年 15.7%）

川越氷川神社縁むすび風鈴及びインスタグラムなど SNS の情報発信が話題となり、若者層の割合が増えてきていると考えられる。

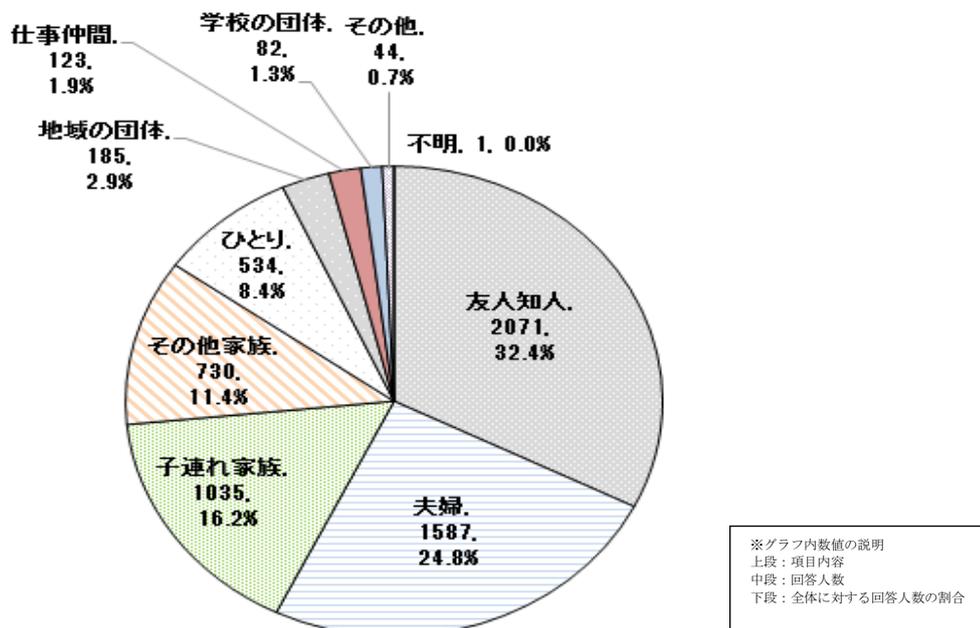
(図 9) 年齢



### 2-3-4 同行者

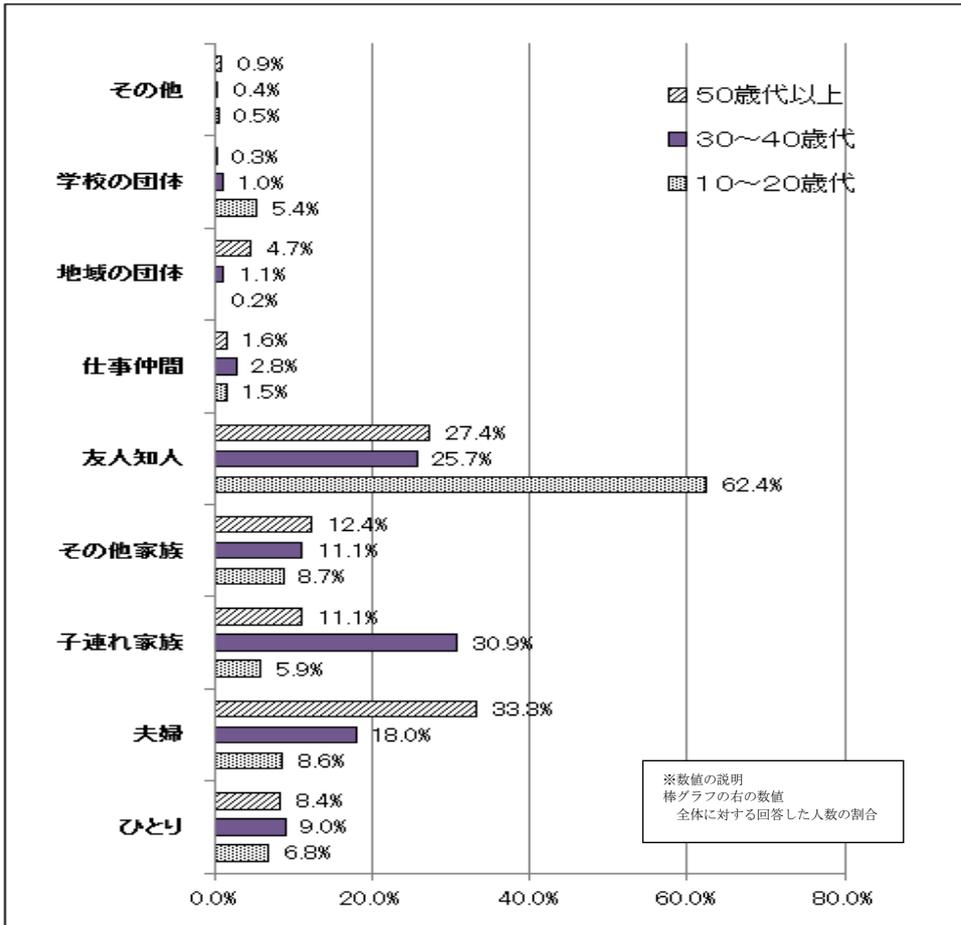
友人知人で川越を訪れる観光客が最も多かった（32.4%）。また、夫婦（24.8%）、子連れ家族（16.2%）や、その他家族（11.4%）を含めると、家族で川越を訪れる観光客は 52.4%と前年と同様に半数以上を占める結果となった。（図 10）

(図 10) 同行者



また、世代別（10～20歳代、30～40歳代、50歳代以上）の同行者を調べたところ、10～20歳代では友人知人（62.4%）の割合が最も多く、30～40歳代では子連れ家族（30.9%）の割合が最も多かった。50歳代以上では夫婦（33.3%）の割合が最も多かった。（図 11）

(図 1 1) 世代別同行者

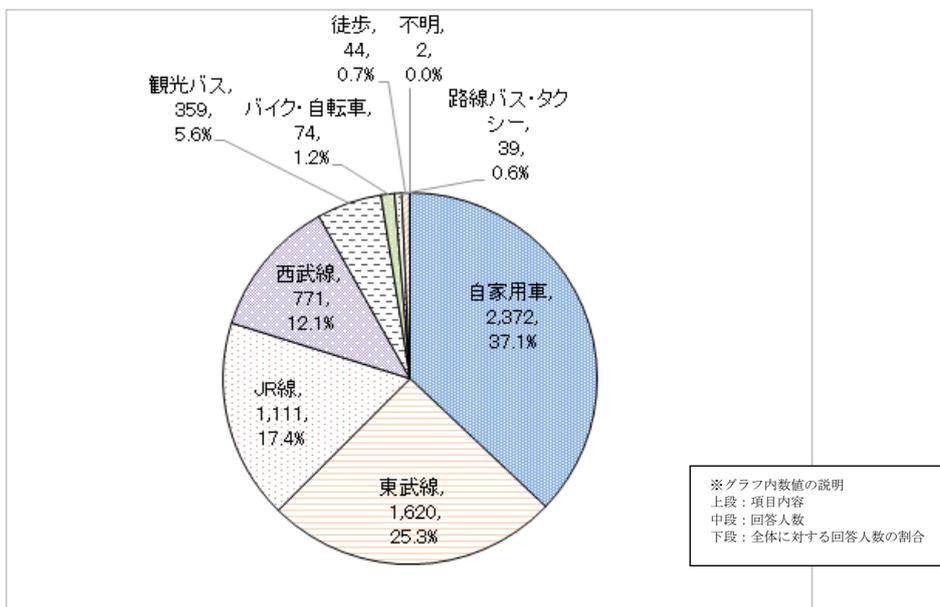


## 2-3-5 交通手段

川越に乗り入れている鉄道 3 社の利用客率を合計すると約半数 (54.8%) になり、平成 28 年の利用客率 (55.7%) より 0.9 ポイント減少した。

また、自家用車の利用客率 (37.1%) は前年に比べて 0.2 ポイント増加した。(平成 28 年は 36.9%) (図 12)

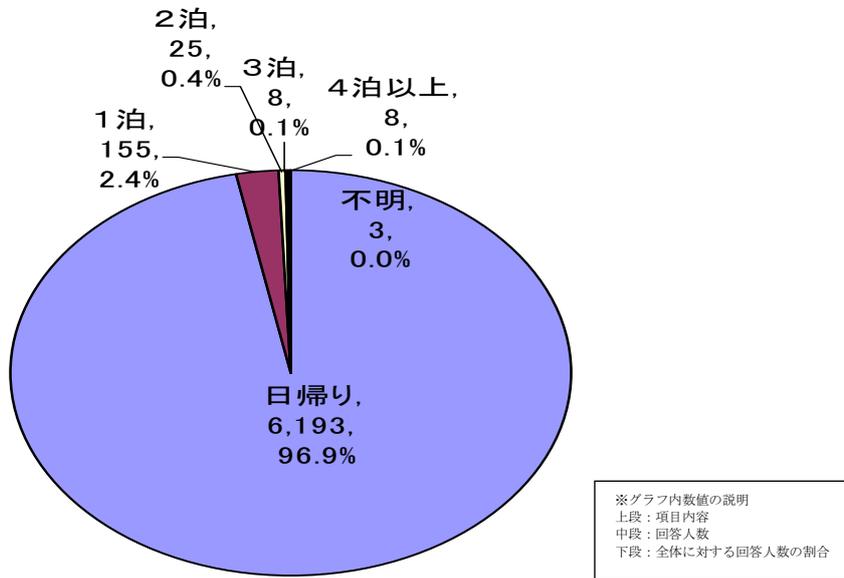
(図 1 2) 交通手段



### 2-3-6 滞在期間

川越市内の滞在期間は日帰りが96.9%と、大半を占めた。平成28年（日帰り97.5%）より0.6ポイント減少する結果となった。（図13）

（図13） 滞在期間



### 2-3-7 宿泊観光客

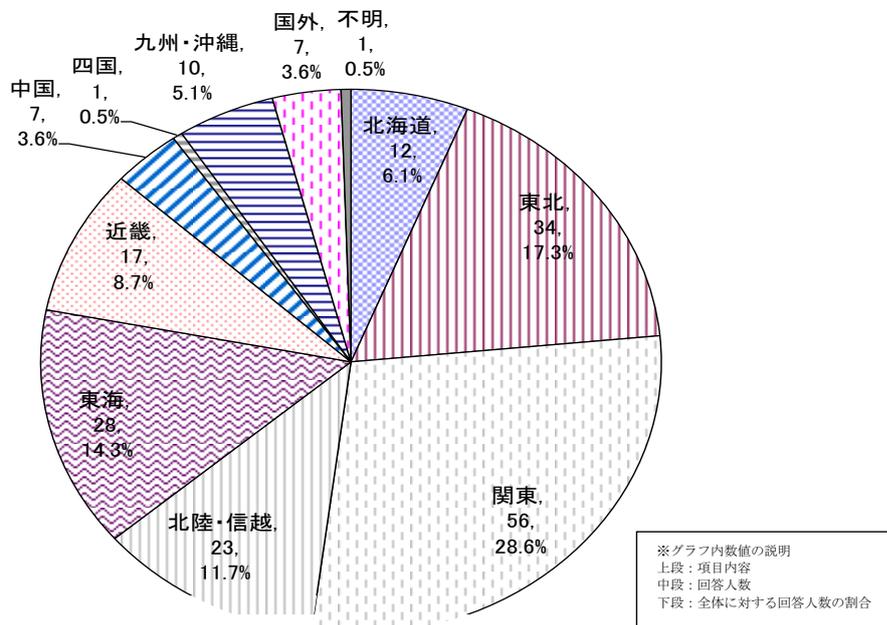
川越市内の宿泊を伴う宿泊観光客の割合は、3.1%（196人）で、前年の2.5%（157人）から微増した。このうち国外が発発地の観光客は7人だった。

国内の出発地の地方別内訳は（図14）、都道府県別内訳は（表7）のとおりである。

都道府県別では、東京都が最も多く（17人、8.7%）、続いて福島県と神奈川県（14人、7.1%）、北海道と静岡県（12人、6.1%）という結果であった。

国外の出発地は、アメリカ合衆国2人、香港、台湾、ロシア、インドネシア、アルゼンチンが各1人だった。

（図14） 宿泊観光客の地方別出発



(表 7) 宿泊観光客の都道府県別出発地

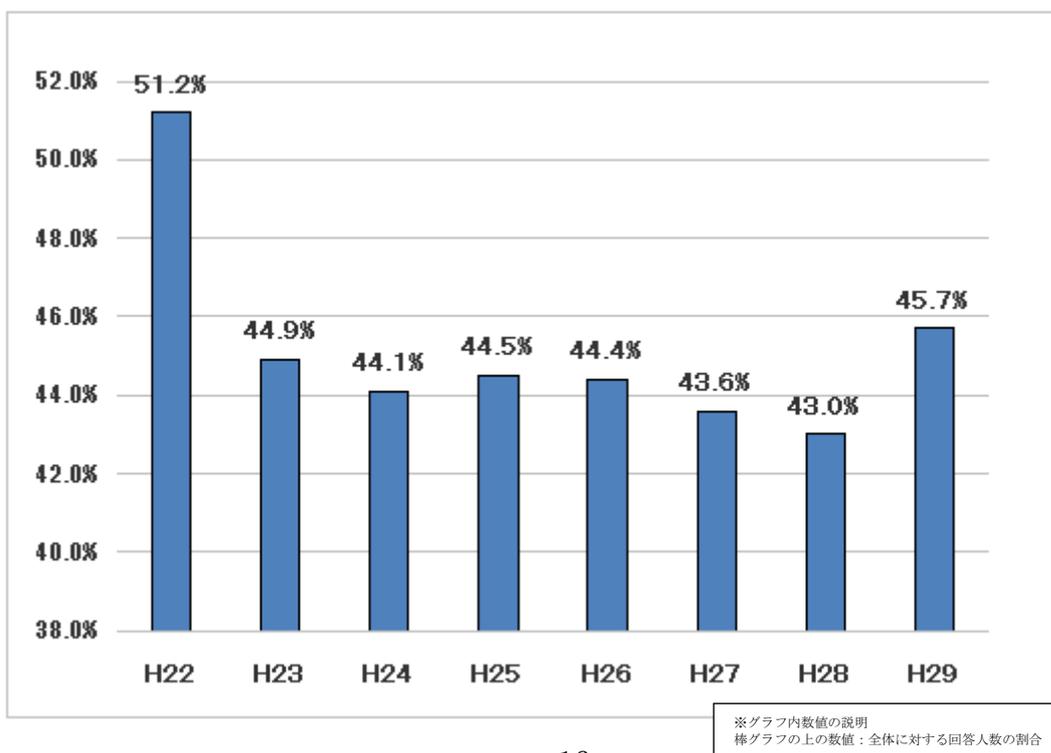
地方	件数	都道府県別（上位順に表記）※カッコ内は人数
関東	56人	東京都(17), 神奈川県(14), 千葉県(9), 茨城県(6) 山梨県(4), 群馬県(3), 栃木県(2), 埼玉県(1)
東北	34人	福島県(14), 宮城県(9), 秋田県(4), 山形県(3), 岩手県(3), 青森県(1)
東海	28人	静岡県(12), 愛知県(9), 岐阜県(4), 三重県(3)
北陸・信越	23人	長野県(11), 新潟県(7), 石川県(3), 富山県(1), 福井県(1)
近畿	17人	大阪府(7), 兵庫県(5), 奈良県(2), 京都府(1), 滋賀県(1), 和歌山県(1)
北海道	12人	北海道(12)
九州・沖縄	10人	福岡県(2), 鹿児島県(2), 沖縄県(2), 宮崎県(2), 熊本県(1) 大分県(1) 長崎県(0), 佐賀県(0)
中国	7人	広島県(3), 岡山県(3), 島根県(1), 山口県(0), 鳥取県(0)
四国	1人	高知県(1), 香川県(0), 愛媛県(0), 徳島県(0)

### 2-3-8 観光時間

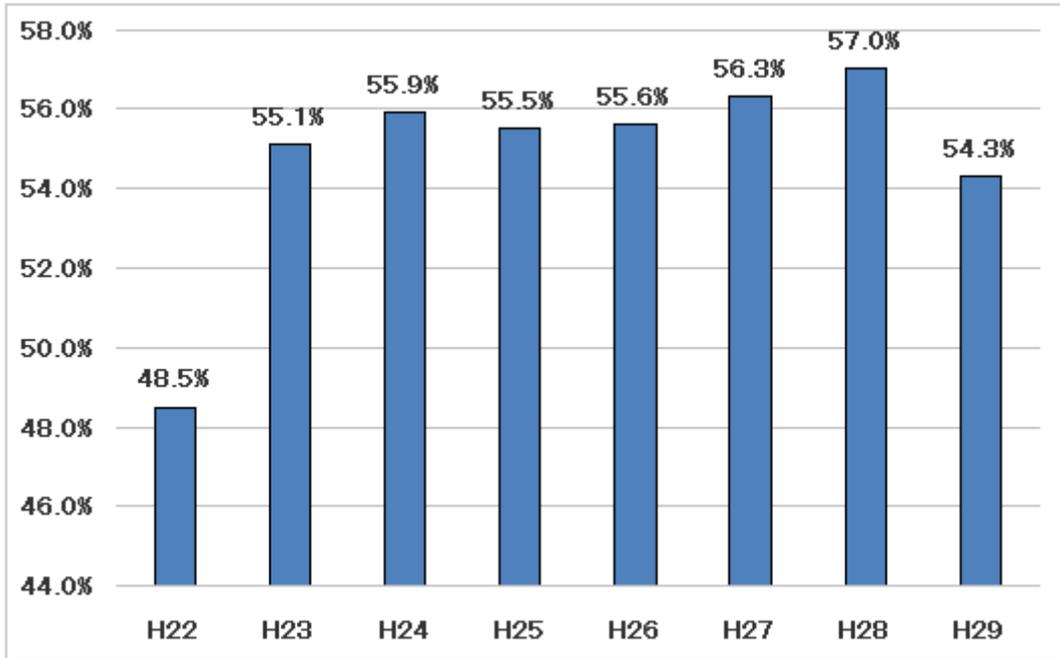
前年の観光アンケート調査と比較すると、滞在時間について、1～3 時間程度の観光客率は増加し、対して半日以上の観光客率は減少するという結果となった。（図 15・16）

観光時間は、3 時間程度から半日の観光客が大半を占める結果となった。（図 17）

(図 15) 観光時間 1～3 時間程度の観光客の割合の推移

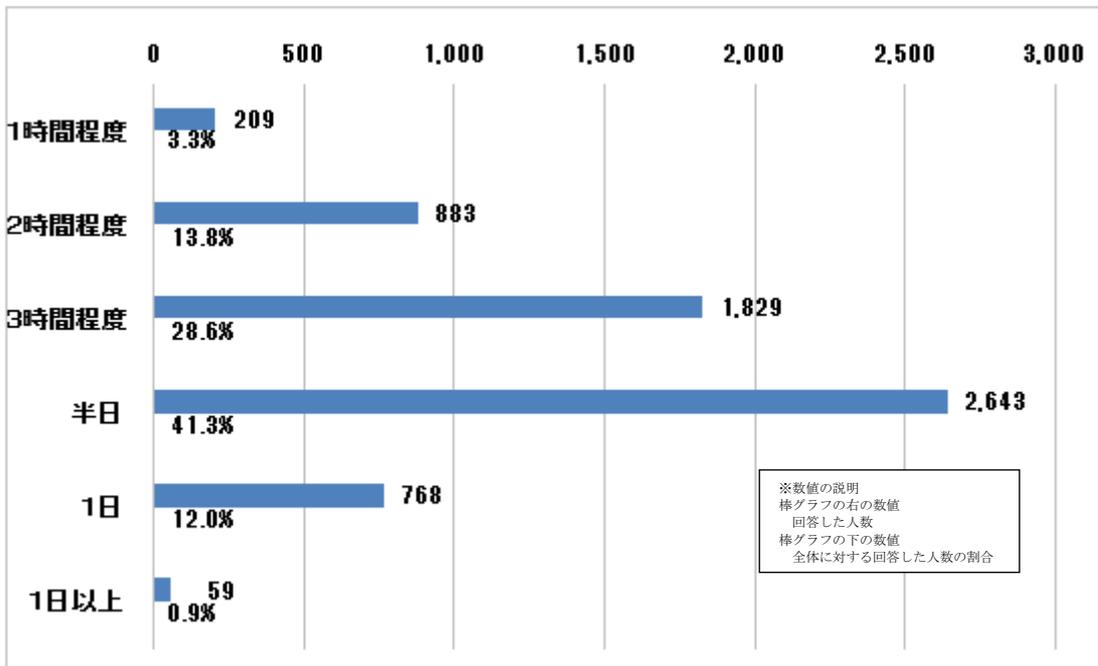


(図16) 観光時間半日以上の観光客の割合の推移



※グラフ内数値の説明  
棒グラフの上の数値：全体に対する回答人数の割合

(図17) 観光時間

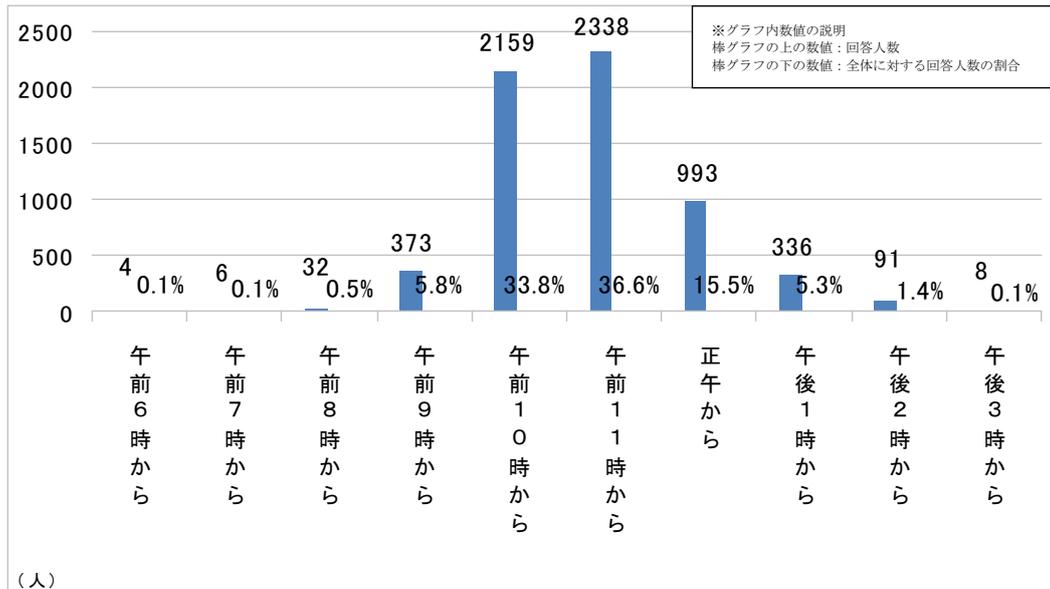


※数値の説明  
棒グラフの右の数値  
回答した人数  
棒グラフの下の数値  
全体に対する回答した人数の割合

### 2-3-9 訪れた時刻、帰る時刻

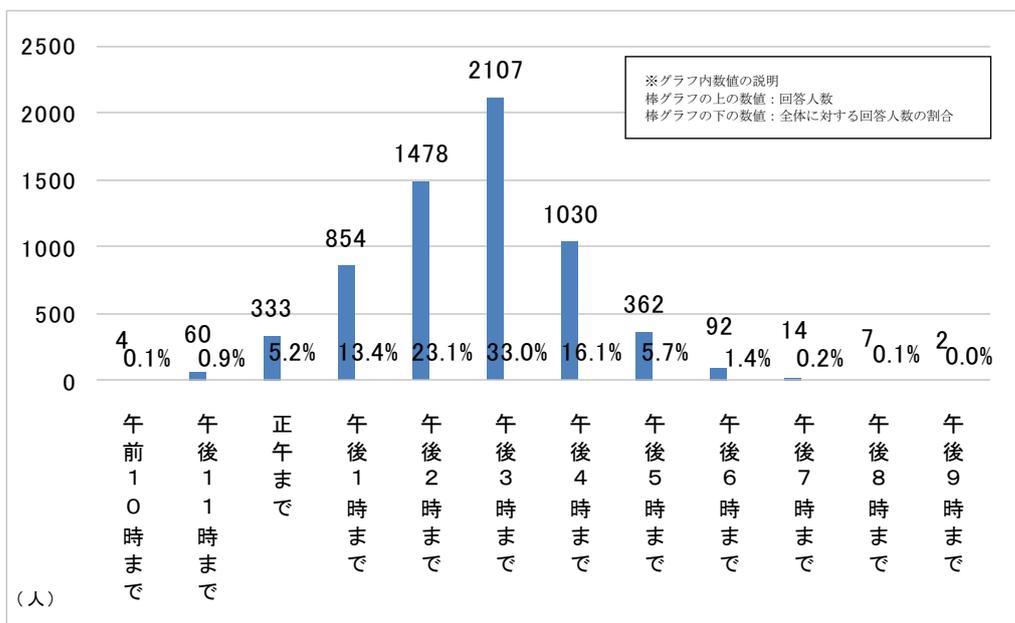
訪れた時刻で最も多かったのは、午前11時からで2,338人(36.6%)、その次に多かったのは、午前10時からの2,159人(33.8%)だった。続いて、正午からの993人(15.5%)となっており、前年に引き続き、約85%以上の観光客が午前10時～正午に訪れていた。(図18)

(図 1 8) 訪れた時刻



帰る時刻で最も多かったのは、午後 3 時までの 2,107 人 (33.0%) であった。その次に多かったのは、午後 2 時までの 1,478 人 (23.1%)、続いて午後 4 時までの 1,030 人 (16.1%) であった。(図 19)

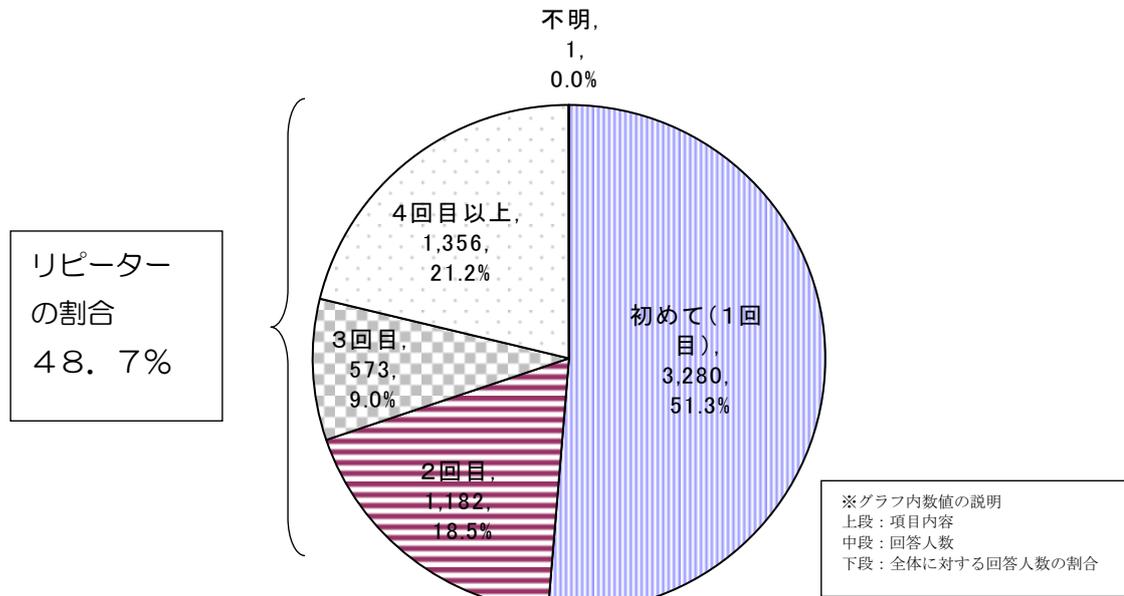
(図 1 9) 帰る時刻



### 2-3-10 来訪回数

川越を「初めて」訪れた観光客は 51.3%で、前年より 0.9 ポイント減少した。平成 28 年以降「初めて」の割合は 2 年連続で減少する結果となった。2 回以上訪れている「リピーター」は 48.7%となり、平成 28 年より 1.0 ポイント増加した。リピーターの中でも 4 回以上訪れている割合が 21.2%と最も多かった。(図 20)

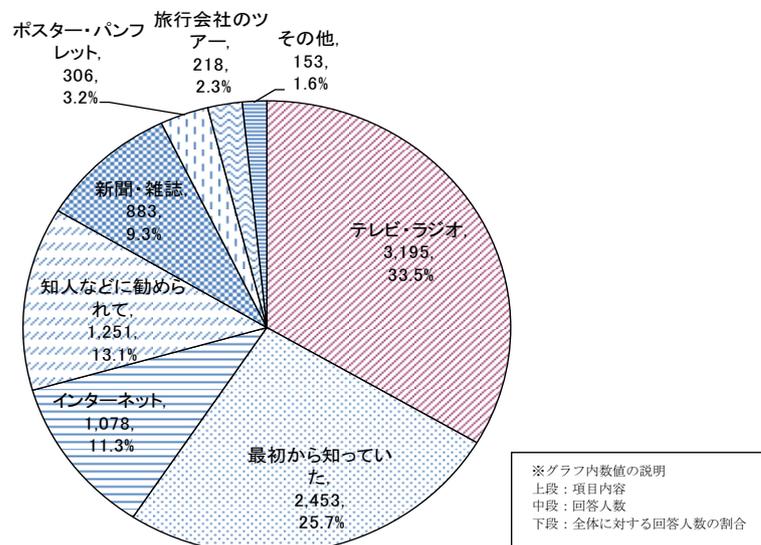
(図 20) 来訪回数



### 2-3-11 認知方法

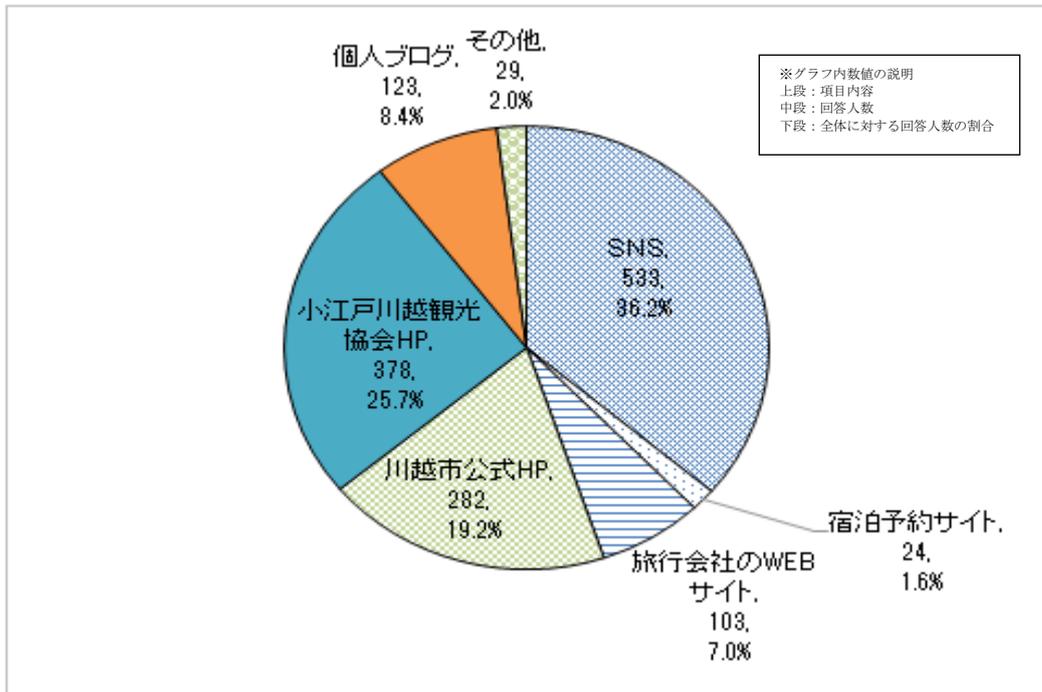
川越を知った方法は、「テレビ・ラジオ」が 33.5%と最も多く、昨年と同様であった。「最初から知っていた(地元の人を含む)」は、25.7%で、続いて「知人などに勧められて」は 13.1%であった。(図 21) ※回答者 1 人につき、複数回答あり

(図 21) 認知方法



また、平成29年より、インターネットと回答した人に対し、その詳細を調査した。「SNS」が36.2%と最も多く、続いて「小江戸川越観光協会HP」（25.7%）、「川越市公式HP」（19.2%）であった。（図22）

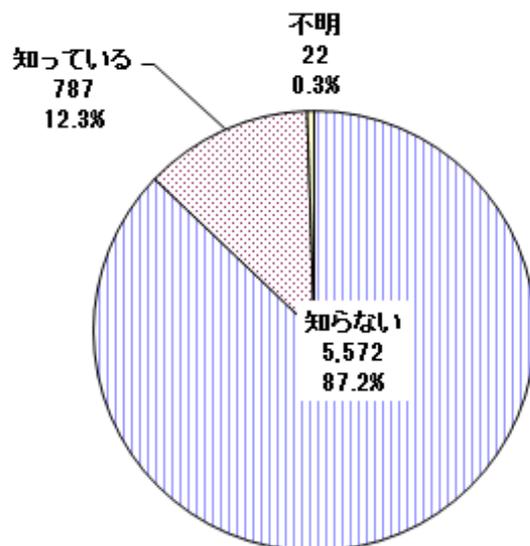
（図22）インターネット利用による認知方法



また、川越の認知方法とあわせて、川越市マスコットキャラクター「ときも」の認知度についても調査を行った。

「ときも」を知っていると答えた人は全体の12.3%で、前年度より1.4ポイント増加した。（図23）

（図23）「ときも」認知度



川越市マスコットキャラクター ときも

※グラフ内数値の説明  
 上段：項目内容  
 中段：回答人数  
 下段：全体に対する回答人数の割合

## 2-3-12 立ち寄り観光地

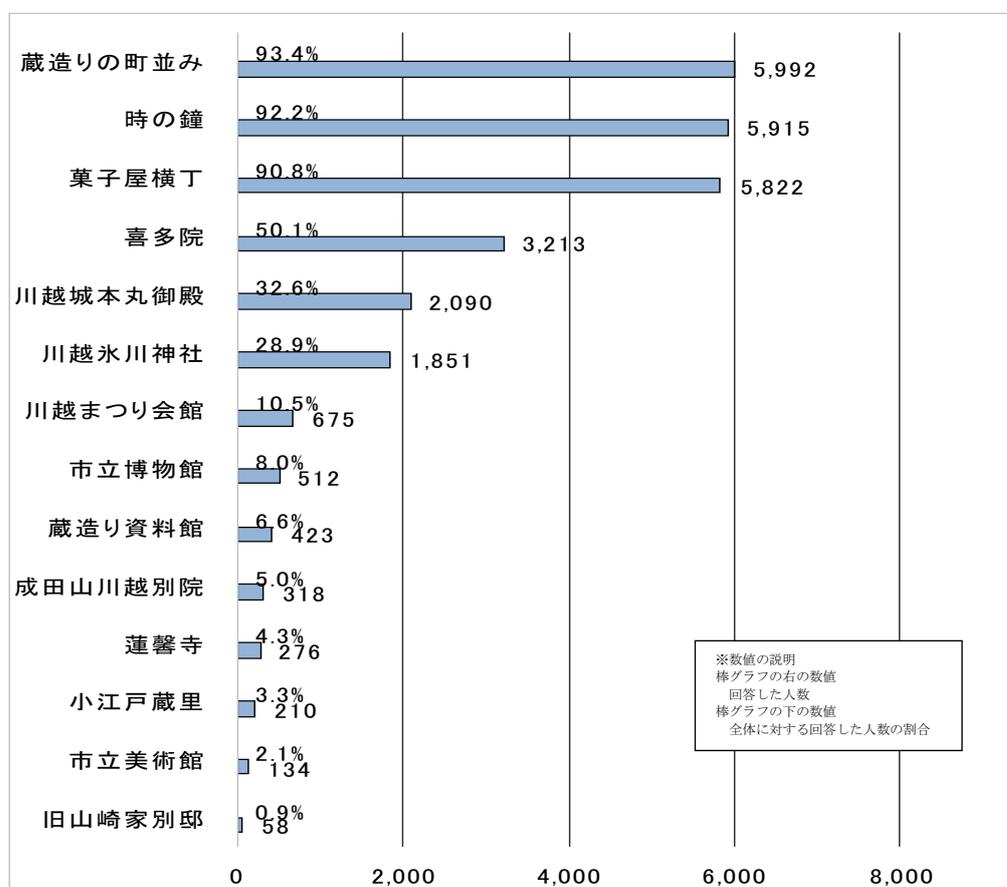
立ち寄り観光地について調査を行ったところ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁は前年に引き続き9割以上の観光客が訪れていた。（蔵造りの町並み93.7%、時の鐘92.5%、菓子屋横丁91.1%）その次に多かったのは喜多院で50.3%、その次は川越城本丸御殿（32.7%）だった。（図24）

また、川越氷川神社が29.0%となっており、平成23年度以降増加し続けている。さらに、平成26年から開催されている「川越氷川神社縁むすび風鈴」も、今年で4年目の実施となり定着したことで、この時期は毎年多くの若者が訪れており、リピーターもいることから、今後も川越氷川神社を訪れる人の割合が高まることが予測される。

平成29年に実施した「川越氷川神社縁むすび風鈴アンケート調査」によると、川越氷川神社以外の立ち寄り先として、蔵造りの町並みを訪れた観光客の割合は、86.0%、菓子屋横丁は61.8%、時の鐘は58.6%であった。一人あたりの立ち寄り数は1.86箇所から5.74箇所に増加していることから、観光客が川越氷川神社から街なかへ流れていると考えられる。（参考3）

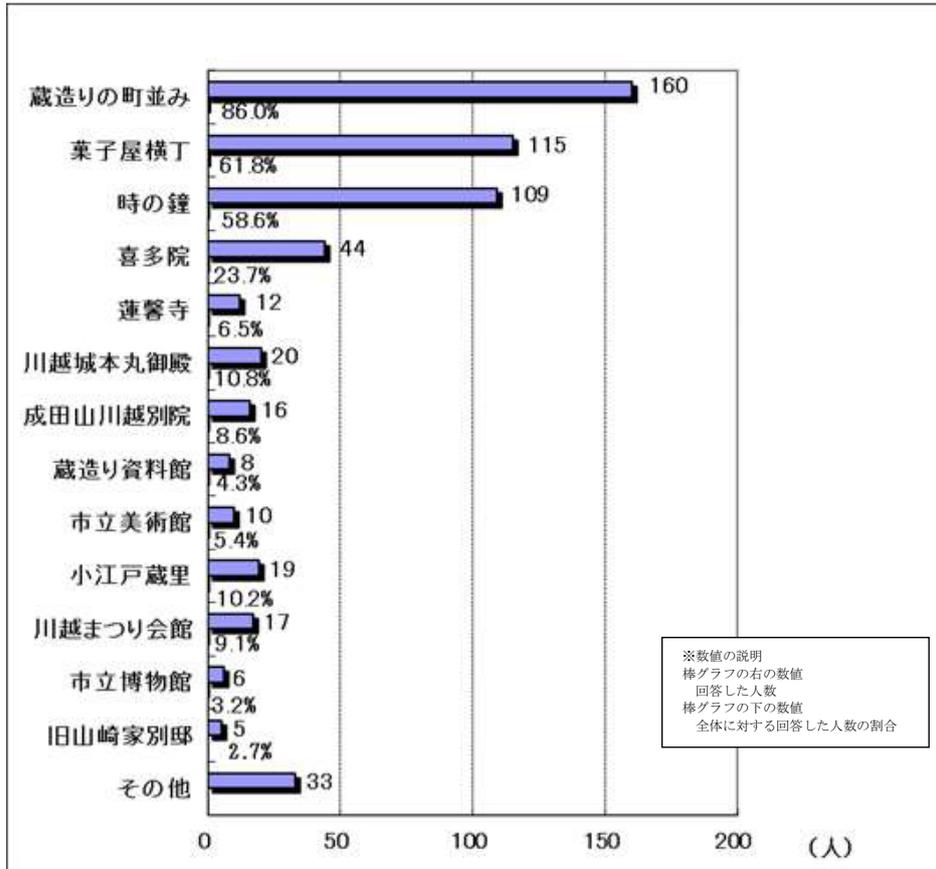
また、平成29年は観光客一人あたりの立ち寄り数は、平均4.3箇所であり、昨年からの増減はなかった。

（図24） 立ち寄り観光地



※回答者1人につき、複数回答あり  
割合(%)は、それぞれの項目を回答した人数を、回答者総数(6,392人)で割ったもの

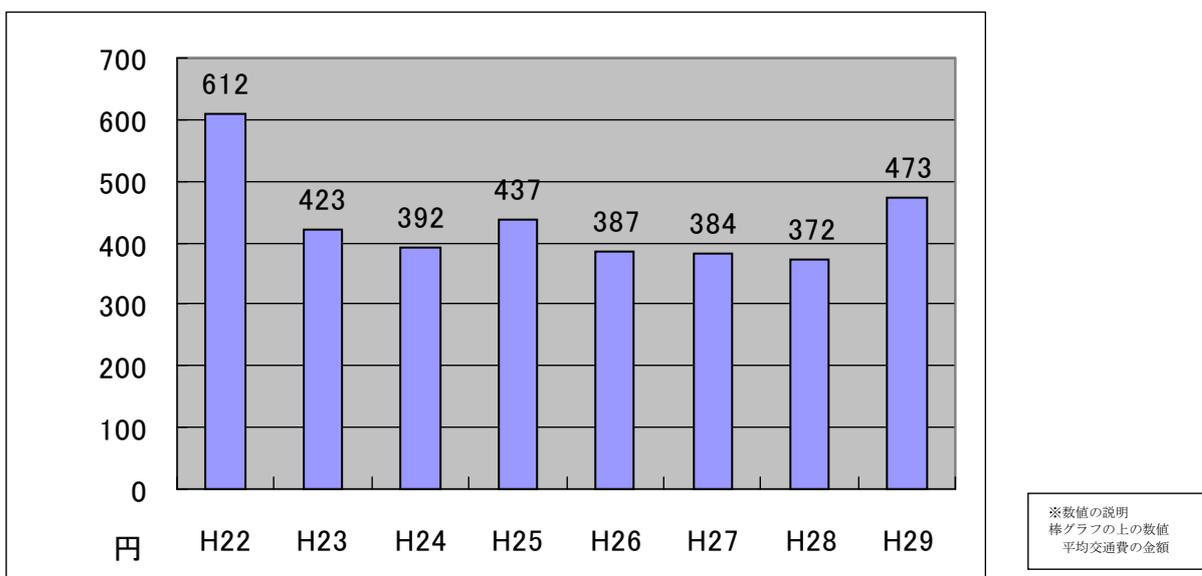
(参考3) 平成29年氷川神社縁結び風鈴アンケート調査における立ち寄り観光地



### 2-3-13 交通費

市内における交通費は、「支出なし」が74.5%と大半を占める結果となった。「支出する」割合は23.4%であり、平成28年の22.4%から1.0%増加した。また、支出した人のほとんどは1,000円未満の支出であった。なお、一人あたりの平均交通費は473円であり、平成28年の372円よりも101円増加したことから、公共交通機関を利用する人が増加していると考えられる。(図25)

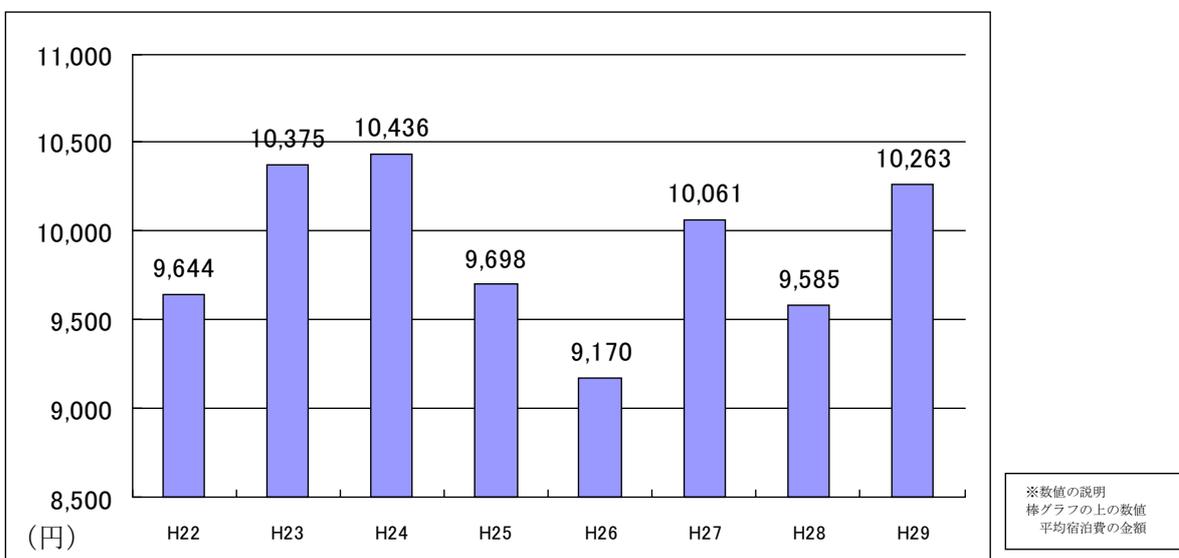
(図25) 交通費推移



### 2-3-14 宿泊費

宿泊費を支出しない観光客の割合は全体の98.1%で、昨年度とほぼ同様であった。また、宿泊費を支出する観光客一人あたりの平均宿泊費は10,263円で、平成28年の9,585円よりも678円増加した。(図26)

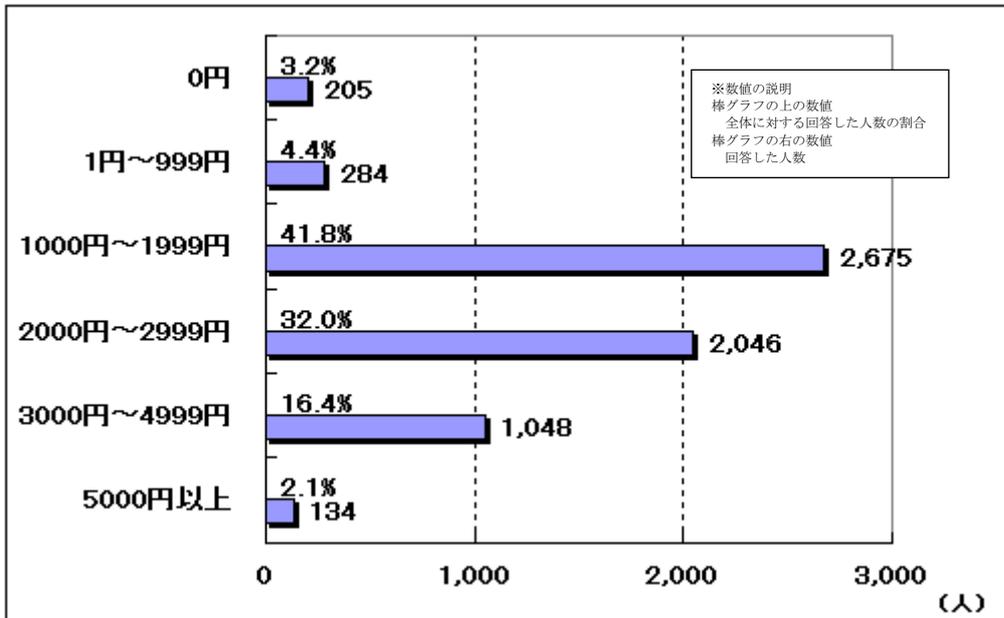
(図26) 平均宿泊費推移



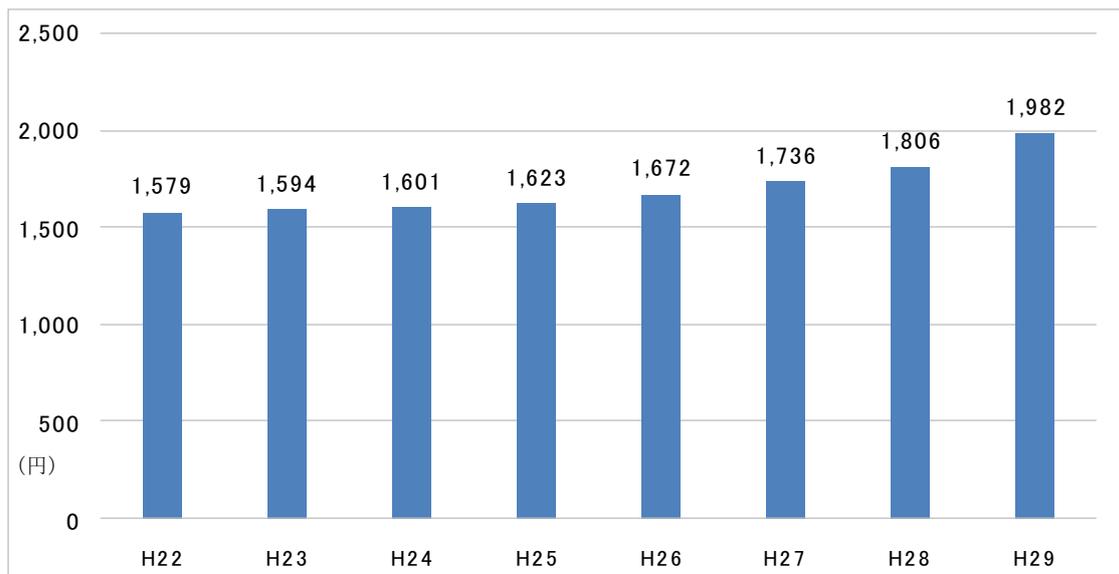
### 2-3-15 飲食費

市内における飲食費は、「支出なし」が 3.2%であり、前年より減少した（平成 28 年 4.8%）。飲食費の支出は 2000 円未満が 49.4%と半数近くを占める結果となった。一人あたりの平均飲食費は 1,982 円で、平成 28 年の 1,806 円より 176 円増加しており、7 年連続で増加する結果となった。（図 27・28）

（図 27） 飲食費



（図 28） 平均飲食費推移



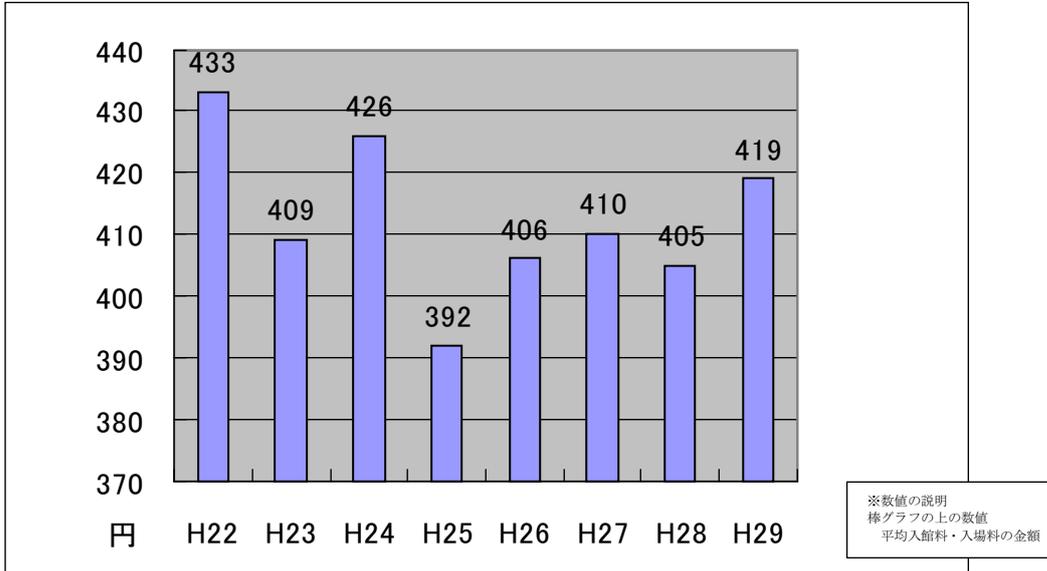
※数値の説明  
棒グラフの上の数値  
平均飲食費の金額

### 2-3-16 入館料・入場料

入館料・入場料は「支出なし」が 49.3%であり、平成 28 年の 51.5%と比較して、

2.2 ポイント減少した。入館料・入場料の支出は1,000円未満が大半を占める結果となった。また、一人あたりの平均入館料・入場料は419円で、前年の405円よりも14円増加したことから、有料施設への入館・入場が増加したと考えられる。(図29)

(図29) 入館料・入場料推移

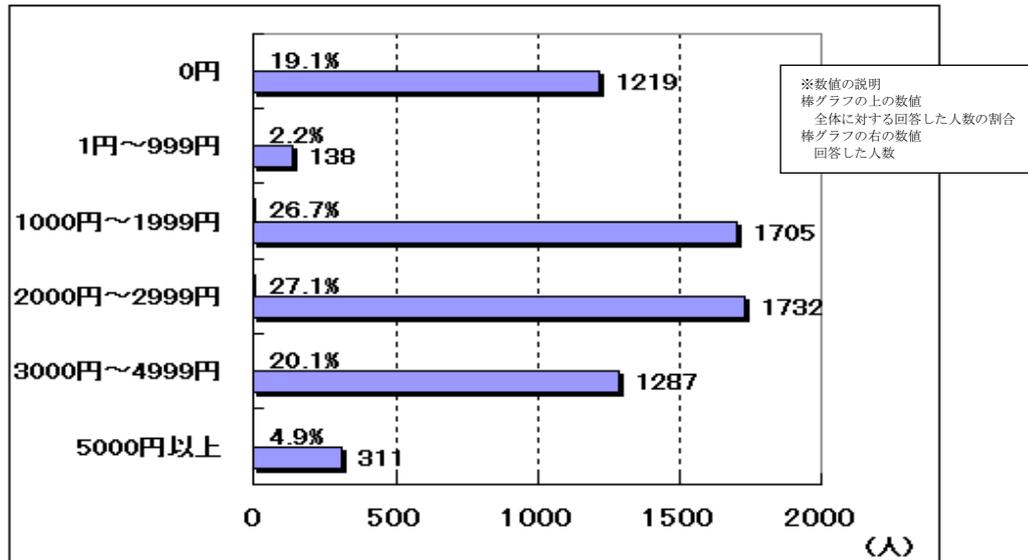


### 2-3-17 お土産品購入費

市内におけるお土産品購入費は、最も多かったのが2,000円台の27.1%、次いで1,000円台の26.7%、次に3,000円代の20.1%という結果となった。(図30)

一人あたりの平均購入額は2,176円となり、昨年に引き続き減少する結果となった。お土産品購入費の平均消費額は近年減少傾向にある。これは観光客のニーズがモノより思い出(コト消費)に変わってきているものと考えられる。

(図30) お土産品購入費

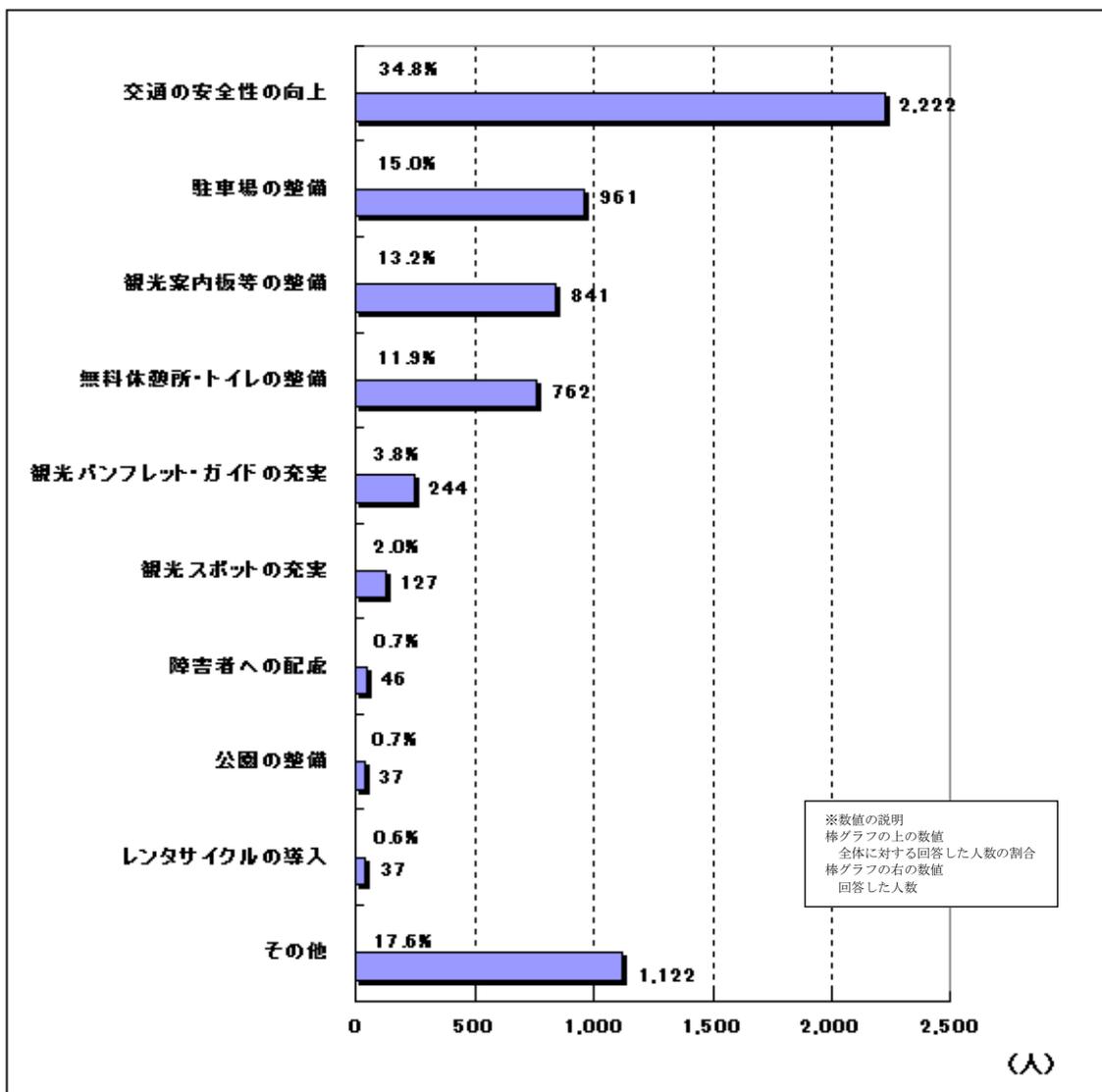


## 2-3-18 要望

観光客からの要望で最も多かったのが「交通の安全性の向上」（34.8%）であった。また、次に多かった要望は「駐車場の整備」で、前年の「観光案内板等の整備」と入れ替わった。これは、主に一番街の交通問題の解消が求められていると推測される。

(図 31)

(図 3 1) 要望



※回答者 1 人につき、複数回答あり。(%) は回答者総数 (6,392 人) に対する割合である。

## 2-3-19 意見・感想（自由回答）

川越に対する具体的な意見・感想については、下記のとおり。意見の中で最も多かったのは、昨年同様、歩行者天国の実施を求める要望であった。トイレの改修・増設やゴミ箱設置など、施設の整備関連を充実させてほしいという要望も非常に多かった。体験できるイベントの情報や、お店の開店時間の延長を求める声も多くみられた。

（表8） 川越に対する主な意見・感想

- ・ 来るたびに観光客が増えており驚いている。古い町を大切にしたい。
- ・ 川越氷川神社裏の川の桜に感動したので、大切にしてほしい。
- ・ 一番街の交通量が多く、怖かった。
- ・ 観光協会に電話したところ、男性職員の対応が悪く、不快な思いをした。
- ・ テレビでよく見ていたが、期待を裏切らない素敵な町だった。
- ・ 一番街は土日祭日は歩行者優先にしてほしい。
- ・ 一番街は一方通行にしてほしい。
- ・ 信号のある横断歩道を増やしてほしい。
- ・ 時の鐘の音が寂しい。
- ・ 車の交通量が多すぎるため危険だ。
- ・ 電線がないのいいところ。他のところも整備してほしい。
- ・ 新しさと古さが両方あって良い。
- ・ 横浜から直通電車で来たが、便利なのでまた来たい。
- ・ 日陰の休憩所が欲しい。
- ・ 一番街に近いところに無料駐車場があるといい。
- ・ 菓子屋横丁にベンチなど座れるところがほしい。
- ・ 川越駅観光案内所のスタッフが、親切に案内してくれた。
- ・ ガイドを頼んだところ、とても楽しく、満足した。
- ・ お店が早く閉まってしまうのが残念。
- ・ 前回来たときよりトイレが増え、きれいになっていたので、とても嬉しかった。
- ・ バスの増便を望む。平日は便数が少なすぎる。
- ・ ボランティアガイドさんがいて欲しい。
- ・ もっと樹木があつたら涼しくなるのではないかな。
- ・ 観光施設整備を続けてもらいたい。
- ・ ゴミの持ち帰り運動の掲示をしたらどうか。
- ・ 着物（浴衣）姿の人が多くて、良かった。
- ・ 美術館でもっと良い企画を期待している。
- ・ 外国の観光客が増えているので、語学堪能な方を増やすべきだ。
- ・ 体験できるイベントを情報別にまとめたマップが欲しい。
- ・ レンタサイクルを利用したいと思ったが、クレジットカードしか使えないので諦めた。
- ・ 安全対策としてとりあえず交通整理の人を配置したらどうか。
- ・ 日曜日に観光に来たが、札の辻の観光協会の窓口が閉まっていたがどうなっているのか？

### 3. 観光消費額

観光する際に一般的に消費する「交通費・宿泊費・飲食費・入館（入場）料・お土産購入費」の5項目それぞれの平均消費額を調査し、これを基に、観光客一人あたりの平均消費額や川越にもたらされる全体の消費額を前年と比較してどのような変化が見られたかを分析した。

平成29年の入込観光客数は662万8千人だったが、家族単位で訪れる時などは全員が消費活動を行うわけではないので、実際に消費活動を行う人数を入込観光客数662万8千人の約40%の265万人と仮定し（平成28年度は704万人の約40%である282万人を用いた）、この数値から消費活動率などを踏まえて、川越にどの程度の消費がもたらされたかを試算した。

（表9）平成29年の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数(人)	消費総額
交通費	25.5%	¥473	675,750	¥319,629,750
宿泊費	1.9%	¥10,263	50,350	¥516,742,050
飲食費	96.8%	¥1,982	2,565,200	¥5,084,226,400
入館料・入場料	50.7%	¥419	1,343,550	¥562,947,450
お土産購入費	80.9%	¥2,176	2,143,850	¥4,665,017,600
合 計				¥11,148,563,250

※①消費活動率…アンケート回答者総数（6,392人）に対する、各項目で「支出あり」と回答した観光客の割合。

※②平均消費額…各項目において、観光客1人当たりが消費する平均額。

※③消費活動人数…各々の項目で消費活動を行う人数。消費活動を行う対象となる観光客数265万人に各々の消費活動率を乗じたもの。

※④消費総額…各々の項目で消費される総額。平均消費額に消費活動人数を乗じたもの。

消費総額で最も高かったのは、飲食費の約50億8422万円で、最も低かったのは交通費の約3億1962万円だった。また、平均消費額で見ると、最も高かったのは、宿泊費の10,263円で、最も低かったのは、入館料・入場料の419円だった。

また、各々の消費総額を合計し、川越にもたらされる消費額全体を試算したところ、約111億4800万円となった。（表9）平成28年度の結果（約114億1000万円）と比較すると、約2.3%の減少となった。

消費総額を各項目別で見ると、前年度と比較してお土産費以外は増加する結果となった。交通費は約36.6%、宿泊費は約6.2%、飲食費は約4.9%、入館料・入場料は約1.6%増加した。お土産購入費は約11.8%減少した。（表10）

飲食費の消費総額および消費活動率は近年増加傾向にあり、どちらも過去 5 年で最も高い結果となっている。このことから、グルメを目的とする観光客が増加しているものと推測される。

また、お土産購入費の消費総額および消費活動率も大幅に減少していることから、町歩きや食べ歩きを目的とする観光客が増加していると考えられる。

(表 10) 平成 28 年度の消費項目別の観光客平均消費額

項目	消費活動率	平均消費額	消費活動人数(人)	消費総額
交通費	22.3%	¥372	628,860	¥233,935,920
宿泊費	1.8%	¥9,585	50,760	¥486,534,600
飲食費	95.2%	¥1,806	2,684,640	¥4,848,459,840
入館料・入場料	48.5%	¥405	1,367,700	¥553,918,500
お土産購入費	85.0%	¥2,206	2,397,000	¥5,287,782,000
合 計				¥11,410,630,860

観光客一人あたりの平均消費額については、「日帰り観光客」、「宿泊観光客」、「観光客全体」に分けて算出した。(表 11)

また、宿泊観光客については、「宿泊費を支出する観光客」(ホテルや旅館に宿泊と推定)と「宿泊費を支出しない観光客」(家族や友人の家などに宿泊と推定)がいたため、両者を区別して算出した。

(表 11) 滞在形態別の観光客平均消費額

	人数(人)	平均消費額
宿泊観光客(宿泊費支出あり)	109	¥17,704
宿泊観光客(宿泊費支出なし)	87	¥4,984
日帰り観光客	6,193	¥3,955
不明	3	¥667
全体	6,392	¥4,204

「宿泊費支出あり」の宿泊観光客の平均消費額は 17,704 円、「宿泊費支出なし」の宿泊観光客は 4,984 円、日帰り観光客は 3,955 円だった。

また、観光客全体では 4,204 円だった。4,045 円だった平成 28 年度と比較すると、159 円増加した。

次に、世代別（10～20 歳代、30～40 歳代、50 歳代以上、不明除く）で平均消費額を調べたところ、10～20 歳代の平均消費額は 3,349 円、30～40 歳代の平均消費額は 4,135 円、50 歳代以上の平均消費額は 4,492 円と、年代が上がるにつれ、平均消費額が増える結果となった。（表 12）

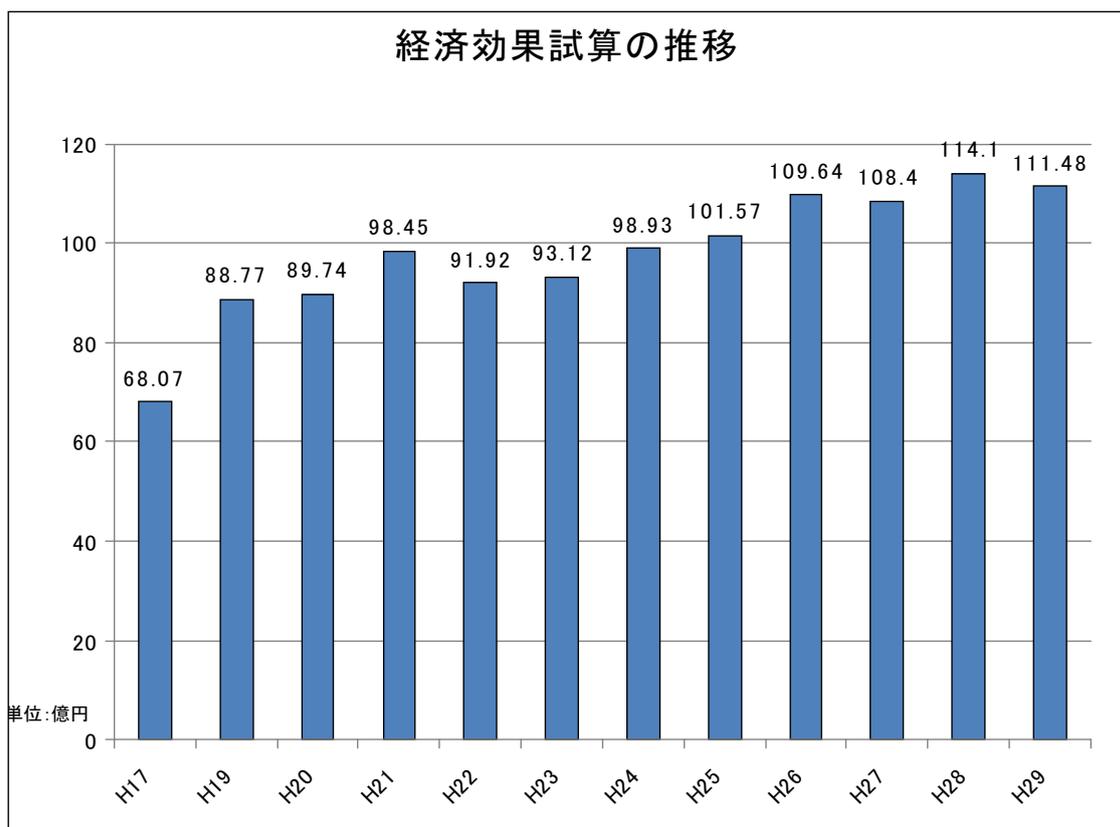
消費総額については、平成 28 年に最も高い数字となったが、平成 29 年は 2.3%減少する結果となった。（図 32）

（表 1 2） 世代別の観光客平均消費額

項 目	人数（人）	平均消費額
10～20 歳代	1,008	¥3,349
30～40 歳代	1,925	¥4,135
50 歳代以上	3,456	¥4,492

※合計人数が 6,389 人となるが、これは年齢未記入者が 3 名いるため。

（図 3 2） 経済効果試算の推移



※平成 18 年については、観光アンケート調査を行っていない。

※数値の説明  
棒グラフ上の数値  
消費総額の合計  
枠内数値  
年度毎の増減割合

川越市観光アンケート調査報告書 平成 29 年

平成 30 年 4 月

編集・発行 川越市産業観光部観光課

〒350-8601 埼玉県川越市元町 1-3-1

TEL 049-224-5940 (直通) 049-224-8811 (代表)

FAX 049-224-8712